＝　普　及　情　報　＝

Ｎｏ．３

令和４年７月１１日

東部農林水産振興センター出雲事務所農業部

標題	出雲市斐川町における水稲低コスト・省力技術について

（ダイジェスト）

出雲市斐川町では水稲栽培のほか小豆、タマネギ等の栽培により土地の有効活用が進んでいます。近年の米価下落に伴い水稲から高収益作物への転換の必要性が高まっていますが、稲作と作業が競合し、転換への障害となっています。そこで、水稲の作業効率を向上させ、他品目を作付する作業時間を確保するため、直播栽培や高密度播種育苗といった省力技術の導入が進んでいます。

出雲市斐川町は耕地面積に占める水田の割合が８８％、水稲の作付割合が５２％と水稲栽培が主要な作物となっていますが、昨今の米価下落により水稲栽培以外に麦、大豆、小豆、ソバ、ハトムギ、タマネギ、キャベツ等の栽培によりブロックローテション（２年３作等）を行い土地の有効活用および高収益作物への転換が進められています。

（直播栽培　発芽の様子）

このように水稲から高収益作物等の他品目への転換を行う事で土地利用率を上げ、生産者の所得向上を図ることができますが、春秋の作付移行期には水稲の育苗、田植え、収穫作業が他品目の作業時期と重なるため、如何に水稲作業を省力化し他品目の作業時間を確保するのかが課題となります。そこで水稲栽培において導入されているのが直播栽培や高密度播種育苗です。

直播栽培は出雲市斐川町で約７４ha 行われています。鉄コーティング、カルパーコーティングだけでなく、より低コストで容易に種子製造できるべんがらモリブデンという新コーティング技術も取り入れられています。また、大きな圃場でも除草剤の効果を安定させるため、レーザーレベラーを使用して圃場の均平を図っています。その他にも代かきの方法や水管理の違い等、技術の向上と安定のポイントについて水稲直播部会による講習会で徹底が図られています。

（高密度播種育苗　播種の様子）

高密度播種育苗は田植機や播種機の更新の際に取り入れる生産者が増え、苗箱数が減ることで田植え作業時の人員を削減でき省力化が可能となっています。更にかん水作業の省力化のためにプール育苗を行っている生産者もいます。

しかし、いずれの技術も一般的な移植栽培に比べて収量が安定しないことから、出雲農業部では、引き続き技術の確立に取り組み、水稲育苗の省力化と水田園芸の推進に取り組んでいきます。

担当者	出雲地域振興第三課	冨尾颯大	Tel:0853-30-5575